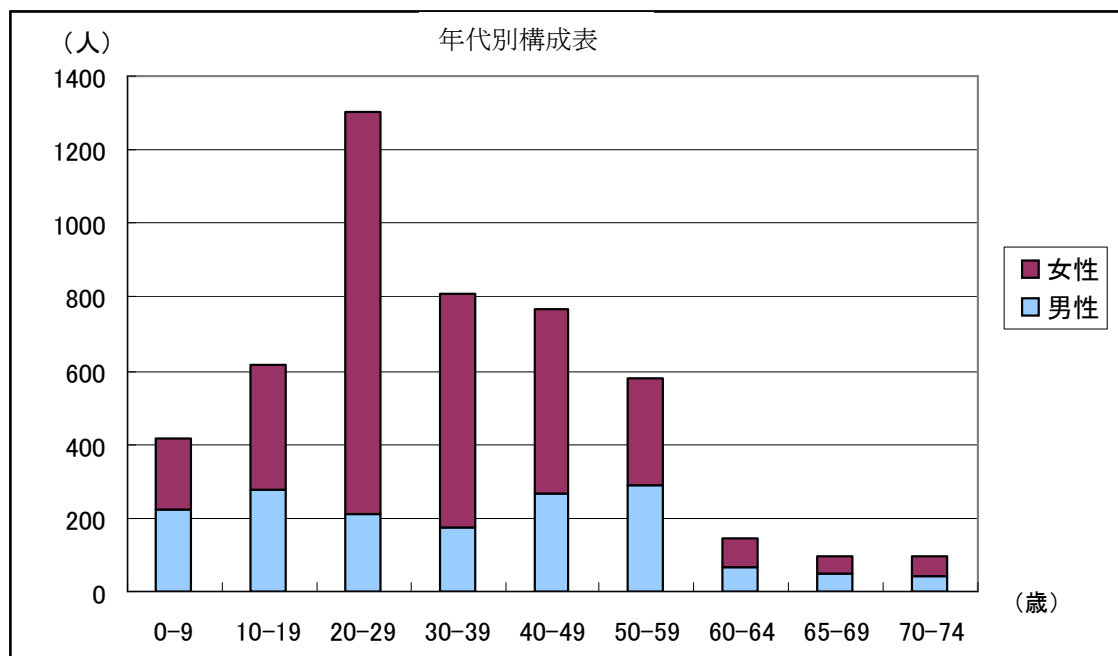


歯科医師国保組合の集団としての疾病特徴や被保険者の健康状態

1. 被保険者の年齢構成

当組合の被保険者は平成19年7月末現在、0歳から74歳までで男性が1,605名、女性が3,220名の計4,825名。そのうち男性は50歳代が18%、40歳代・10歳代がそれぞれ17%で約半数を占めている。一方女性は20歳代が34%、30歳代が20%で約半数を占めており、男女の年代別で占める割合に大きく差がある。これは歯科医師およびそこに勤務する歯科衛生士という職業的特徴からきている。また、特定健診の対象である40歳から74歳までの被保険者数は男性716名、女性965名の計1,681名となっている。



2. 入院の分析

平成19年7月診療分の1ヶ月の100万円を超える高額レセプトは3件で、うち1件はがん、2件は心疾患となっている。入院件数は26件で、今回の特定健診の目的である予防可能な生活習慣病が病名になっているものは9件となっている。

3. 生活習慣病の状況 (0~74歳の平成19年7月診療分より)

被保険者に占める生活習慣病対象者は8.4%

基礎疾患では高血圧59%、高脂血症45.4%、糖尿病27.2%、虚血性心疾患13.6%となっている。高血圧は脳卒中の最も危険な要因であり、脳血管疾患や心疾患の予防には高血圧のコントロールが重要である。

4. 被保険者の健康状況

(1) 健診受診状況

平成18年度の40～74歳の受診率は約51%（男性約63%、女性約42%）である。当組合の場合、歯科医師会が健康診断を各郡市で実施しているため、比較的受診しやすい傾向にあり、このような高い受診率になっていると思われる。

(2) 健診有所見者状況

男性は中性脂肪、HbA1c、GPT、LDL コレステロールの有所見者が多く、女性はLDL コレステロール、HbA1c の有所見者が多い。男女ともに割合の高かったLDL コレステロール血症は動脈硬化やそれを促進する因子のひとつでもあるので、原因と対応を考える必要がある。

5. 被保険者の特徴

当組合の被保険者は比較的若い世代で構成されており、全体で見ると生活習慣病対象者は8.4%と少ない。しかしながら年齢が高くなるごとに、高血圧、高脂血症等の該当者が増えている現状を考えると若いうちからの予防が必要であり、更なる受診率アップを目指したい。

年齢別有所見個数分析(危険因子個数の視点から)

| 条件 | 総人数 | 3個以上 | | 1～2個 | | 有所見無し | |
|-------|------|------|-----|------|-----|-------|-----|
| 40歳代 | 448 | 74 | 17% | 159 | 35% | 215 | 48% |
| 50歳代 | 235 | 89 | 38% | 100 | 43% | 46 | 20% |
| 60歳代 | 68 | 35 | 51% | 25 | 37% | 8 | 12% |
| 70～74 | 14 | 7 | 50% | 7 | 50% | 0 | 0% |
| 40～64 | 719 | 178 | 25% | 276 | 38% | 265 | 37% |
| 65～74 | 46 | 27 | 59% | 15 | 33% | 4 | 9% |
| 総数 | 1530 | 410 | 54% | 582 | 76% | 538 | 70% |

